

## 5. 事業が長期間要している理由は？

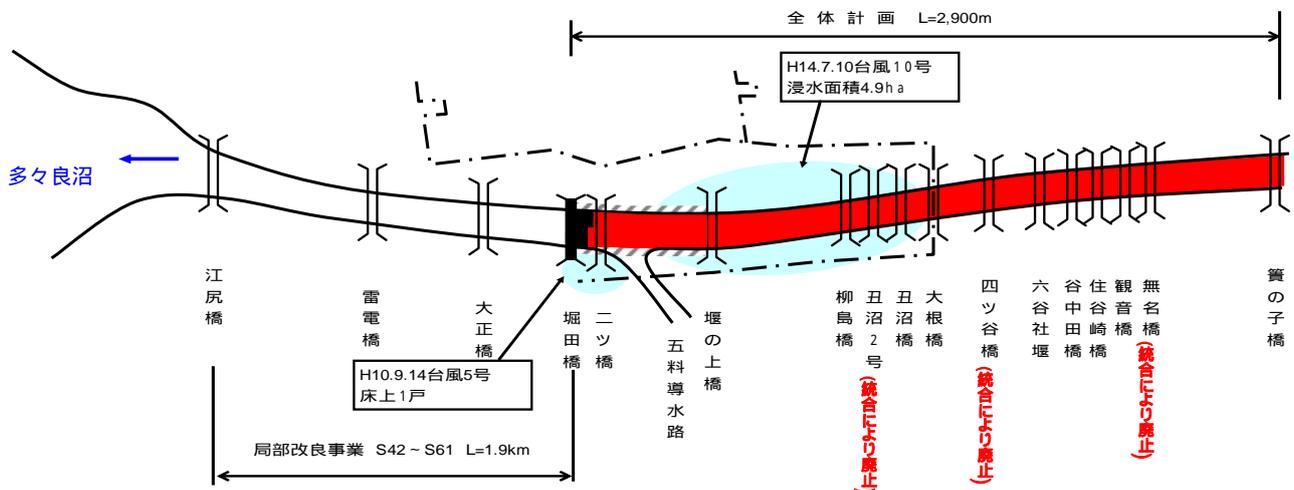
【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

【元々が長期計画】

河川事業では、氾濫の危険箇所を改修して流下能力を上げた場合でも、その下流に新たな氾濫を起こさないようにするため、下流から一定の治水効果を確保していく必要がある。

このため、本河川においては2,900mの河道改修が必要であり、長期計画となっている。



## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし 事業計画の変更 スケジュールの変更

- ・本事業は、河道拡幅による改修によって多々良川沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・下流部から順次改修を進めており、現在事業費ベースで約17%の進捗が図られている。
- ・近年でもH10年やH14年に沿川の浸水被害が発生しているため、改修に対する周辺住民の関心も大きく、依然として事業実施の必要性は高い。
- ・現河床に生息する希少植物「コウホネ」の保護対策のため堀田橋の架替えに時間を要したが、移植実験を経て保護対策後は順調に経過しており、現在上流の護岸整備を進めている。
- ・今後の改修にあたり、自然素材の活用や土羽護岸の採用、橋梁や樋管の統廃合を行いながら計画の見直しによるコスト縮減を図っており、平成27年度の完成に向けて事業を進めていきたい。